

福島大学農学群食農学類(仮称)説明会

福島開催

「福島だから買う」

と言われるものを作る気概を

～食農学類(仮称)が地域産業界に与える影響～

日時

2018.7.20(金) 14:00-16:30

参加費
無料

日時

コラッセふくしま3階 企画展示室

(福島県福島市三河南町1番20号) JR福島駅西口より徒歩3分

参加対象者

企業団体・自治体職員等、一般市民

定員

100名 事前申し込みが必要です。

参加ご希望の方は裏面の申し込み方法により7月17日(火)までお申し込みください。(定員になり次第、締め切ります)

主催

 国立大学法人福島大学

共催

福島大学農学系人材養成組織設置期成同盟会、福島大学農学支援基金募金会

後援

福島県、福島県商工会議所連合会、JAグループ福島、株式会社東邦銀行

【福島大学農学系人材養成組織設置期成同盟会 賛同団体】

福島市、伊達市、桑折町、国見町、川俣町、新地町、飯舘村、ふくしま未来農業協同組合、福島商工会議所、原町商工会議所、相馬商工会議所、飯坂町商工会、松川町商工会、飯野町商工会、桑折町商工会、国見町商工会、川俣町商工会、伊達市商工会、保原町商工会、あだたら商工会、新地町商工会、飯舘村商工会

開催目的

農地面積が全国で7番目、森林面積が4番目の福島県は**有数の農業県**であり、**林業県**である。米麦作・野菜果樹・畜産のバランスがとれている点では、**福島県には日本農業の縮図のような面もある**。また、発酵食品・醸造酒をはじめとして、伝統的な食品産業が地域の農産物のもとで育まれた地域としても知られている。そんな福島県ではあるものの、県内の大学に農学系の学部ないし学科は存在しておらず、**東北6県ではいわば農学の空白県であった**。つまり、地域の農林業や食品産業に貢献する科学的知見の提供や専門的な知識と手法を身に付けた人材の養成という役割について、体系的・継続的に担うことのできる教育研究組織は存在していなかった。特に農林業への情報通信技術の導入が進み、農業と食品産業がつながる新たなビジネス形態が広がる今日、斬新なアイデアによって産業活動に貢献できる人材の養成で遅れをとるならば、地域の農林業と食品産業に明るい未来をもたらすことは困難となる。農林業や食品産業や地域社会のニーズへの対応についても、大学ならではの特色を発揮することが重要である。震災後の福島県の農林業や関連産業は各地で後退を余儀なくされたが、一面では従事者の高齢化と地域資源利用の低下が進む日本の農林業のトレンドを先取りしている部分もある。したがって、福島県において農林業や関連産業の新たな潮流を生み出すことは、日本社会の未来に向けた先駆的な取組ともなる。つまりそこに県内企業等にとっての**ビジネスチャンス**がある。2019年4月設置予定の食農学類(仮称)は、研究成果を地域に還元する機能、地域人材を育成する機能、若者を地方にとめおく機能(地域産業等の発展によるものを含む)等々の役割を果たす所存である。この食農学類(仮称)は地域産業発展の原動力となりうる機能を備えている。**食農学類が各企業団体等をつなぐハブ的な役割を果たし、オール福島としての連携体制を構築したい**。

プログラム

受付	13:30~	福島大学各学類紹介DVD上映	
開会	14:00~14:10	挨拶	中井 勝己 福島大学長
学類説明1	14:10~14:30	人材育成に関するポリシー	荒井 聡 準備副室長(教授)
	14:30~14:50	研究に関するポリシー	金子 信博 準備副室長(教授)
事例紹介	14:50~15:10	食べることは楽しいを科学する	平 修 準備副室長(准教授)
	15:10~15:30	一目瞭然!おいしい米。高付加価値化へ。	新田 洋司 準備副室長(教授)
学類説明2	15:40~16:00	地域貢献に関するポリシー	小山 良太 準備副室長(教授)
	16:00~16:20	質疑応答	
閉会	16:20~16:30	挨拶	生源寺 眞一 農学系教育研究組織設置準備室長(教授)

参加
お申込み
方法

7月17日(火)までに  web申し込み
参加申し込みフォームURL及びQRコード
<https://ws.formzu.net/fgen/S6134719/>



駐車場をご用意しておりません。お車でお越しの場合は周辺の有料駐車場をご利用ください。

● お問い合わせ先 ●

福島大学農学系教育研究組織設置準備事務室 TEL 024-548-8212

食農学類

検索